

# サロンでマップ

## 気軽に支え合いマップ作りができる入り口

### ■サロン・ブームを生かさない手はない

なぜかふれあいサロンばかりである。とにかく自分の地区にいくつのサロンができたのかに関心を持ち、その数が福祉が盛んな市町村であるかどうかの目安にもなると考えている人も少なくない。しかしせっかくサロンブームになったのだから、これを地域福祉に生かさない手はない。

### ■サロンで地域福祉ができる。そのヒントを探そう

残念ながら、今のサロンはあまり福祉の機能を果たしているとは言えない。要援護者を仲間に入れていないことから見ても、どちらかと言えば生涯学習の一環と評せざるを得ない。

しかしサロン活動のやり方次第では、立派な地域福祉活動にもなりうる。その他にどのような要件を具備するべきか。

### ■どんなことを聴取したらいいか

そこで、サロンメンバーと一緒に支え合いマップづくりをする場合に、どんなことを聴取したらいいかを以下に並べてみた。聴取のポイントも加えてある。

この結果からどういう評価を下すか、福祉サロンになるためにどういう課題が出てくるか。皆で考えてみるといいのではないか。

## ①サロンの参加者はだれとだれ？

その日に来ていない人も含める。たまに来る人も含める。これで、どの範囲から参加しているかわかる。ご近所（50世帯）圏域か、自治区（数百世帯）圏域か？ 後者なら、要援護者は遠すぎて参加できない。各自、自治区のどの範囲から来ているかを調べてみる。会場がどのあたりにあるのかも関係する。

## ②男性は？

男性はなかなか参加しない。いま来ている男性メンバーはどのような経緯で参加したかを調べる。ある地区では、元行政職員で組合のオルグを担当していた人がリーダーで、多数の男性を参加させていた。男性にどんな役割を果たしてもらっているかも調べる。男性はお茶飲みだけだと苦手なので、何か役割を提示すれば、ずっと参加しやすくなる。

### ③一人暮らしの人は？

一人暮らしの人が参加すれば、その人の健康状態などを観察できる。参加してきた一人暮らしの人同士が地元に戻って助け合ったりしているかを調べてみるのもいい。男性か女性かの区別も。参加してきたのを機会に、彼ら一人ひとりの普段の見守りをメンバーで分担し合えないか。

### ④老々世帯の人は？ 夫婦で来ている人は？

老々世帯の課題は、夫の地域デビューである。引きこもりがちの人が妻を介護することになると、妻を囲い込んでしまい、地域の支援を拒否する。そうならないよう、夫婦一緒に地域活動に参加することが望まれている。現在何組が夫婦で参加しているか。今後、夫婦参加が見込まれるペアは？

### ⑤要介護の人は？

要介護の人を何人受け入れているか。要支援ぐらいなら受け入れられる。そして彼らの参加のために移送などを行っているか。誰がしているか。今後受け入れるためにどんな体制を作る必要があるか。病弱の人も多いのではないか。仲間が病気がちになったり、要介護になった時に、やめてもらうのか、それとも積極的に残るよう勧めるのか。

### ⑥デイサービスを利用している人は？

デイサービスを利用している人を受け入れているか。仲間がデイサービスを利用するようになると、やめてもらっているのか、残るように勧めているか。ケアマネがデイサービス利用者を仲間に入れるよう働きかけてきているか。

### ⑦最近来なくなった人は？

最近退会した人たちはどういう理由で退会したのかを調べる。そこにサロンとしての課題がないか。特に要介護になったりして退会したケースをどう考えるか。介助や移送のニーズに応えられなくなったからかもしれない。これをどう考えるか。

### ⑧これから参加させたい人は？

どういう人を参加させたいのが問題だ。元気な人だけなのか、または病弱や要介護でも参加できるようにするのか。または一人暮らしの人などを見守りがてら参加させたいのか。

### ⑨地元に戻って二次会を開いている人は？

特に自治区圏域でサロンを開く場合、こういう行動が出てくる。相性の合う人同士で、だれかの家で開くささやかなサロン。本サロンには来ないけど、二次会には来るといふ人もいる。

### ⑩サロンでメンバーの困り事を解決したことは？

要介護やデイサービス利用者、病弱の人などの日常のケアや生活支援を、メンバーでできないのか。一人暮らしの仲間についても同様。要援護者だけでなく、仲間の困りごとにサロンとして対応したことはないか。そういうことはしない主義なのか。

### ⑪二次会で助け合いをしている事例は？

二次会だと要援護者も参加しやすいし、お互いにご近所同士なので日常の助け合いが始まりやすい。そういう事例はないか。サロンの参加者だけでなく、その他の隣人の問題に関わるケースもある。こうすることで、サロンが小地域の助け合いを起こしていくきっかけにもなる。

### ⑫家族介護経験者は？ メンバー以外では？

サロンメンバーで家族の介護をした経験のある人が何人いるか。サロンメンバー以外では何人いるか。この人たちで介護サポートのチームを作れば、要介護者も参加できるし、地域での助け合いにも発展しやすい。既にご近所の要介護者に関わっている人がいるかもしれない。50世帯のご近所に最低、5、6人はいる。

### ⑬元看護師は？ メンバー以外では？

元看護師も、ご近所に一人や二人はいるはず。この人をどう生かすかが課題だ。既にサロン仲間の相談に乗ったりしている人がいるか。サロンメンバー外で元看護師がいるかも調べる。

### ⑭サロンとして地域課題に関わったことは？

サロンで出てきた生活・福祉課題にサロンとして取り組んだことがあるか。そういう姿勢があるかどうか。